



(今週のメニュー)

1. 平成26年度 病害虫情報第2号 (営農総合支援センター)
2. 平成26年度 葉いもち調査結果 (営農総合支援センター)
3. 園芸販売課情報 青果物の市場概況について (園芸部 園芸販売課)
4. 園芸資材課情報 「ういずOne」について (別添) (園芸部 園芸資材課)
5. 肥料農薬課情報 「エコピタ液剤」について (別添) (生産資材部 肥料農薬課)
6. 気象情報 (営農総合支援センター)

1 平成26年度 病害虫情報第2号

(発信部署：営農総合支援センター)

内 容：

群馬県農業技術センターより、表題の件について連絡がありましたのでお知らせします。以下 URL よりご確認ください。

○群馬県 HP「病害虫発生予察情報一覧」

<http://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>

2 平成26年度 葉いもち調査結果

(発信部署：営農総合支援センター)

内 容：

群馬県農業技術センターより、表題の件について連絡がありましたのでお知らせします。以下 URL よりご確認ください。

○群馬県 HP「病害虫発生予察情報一覧」

<http://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>

3

園芸販売課情報 青果物の市場概況について

(発信部署：園芸部 園芸販売課)

内 容：

品 名	7月14日～7月19日		7月22日～7月26日	
	高値	安値	高値	安値
だ い こ ん (10kg) DB	756	324	756	324
ご ぼ う (10kg) DB	3,240	432	2,700	432
キ ャ ベ ツ (10kg) DB	864	432	864	432
レ タ ス (10kg) DB	1,080	540	1,080	540
は く さ い (12kg) DB	648	216	648	216
ほ う れ ん 草 (200g) 袋	173	86	162	97
な す (400g) 袋	205	97	173	65
ト マ ト (4kg) DB	1,296	540	1,296	432
え だ ま め (300g) 袋	140	65	130	65
とうもろこし (5kg) DB	1,188	432	1,080	324

4

園芸資材課情報 「ういずOne」について (別添)

(発信部署：園芸部 園芸資材課)

内 容：

今回は、トロ箱養液栽培システム「ういずOne」について、紹介させていただきます。

「ういずOne」は、簡易に低コストで養液栽培を導入することができます。

- ① 液肥混入装置「ミニシステム」(ネタフィルムジャパン(株))
- ② かん水資材(ドリッパー)
- ③ 発泡スチロール栽培槽「プラスBOX」
- ④ 園芸用培土・パーライト
- ⑤ 液肥で構成されている。

「ミニシステム」は制御装置を乾電池で動かすため、電源(電源工事)が不要という特徴があります。

※詳細は、別添資料をご覧ください。

お問い合わせ先

全農群馬県本部 園芸部 園芸資材課まで Tel:027-220-2291

5

肥料農薬課情報 「エコピタ液剤」について（別添）

（発信部署：生産資材部 肥料農薬課）

内 容：

I PM関連剤「エコピタ液剤」について御紹介します。

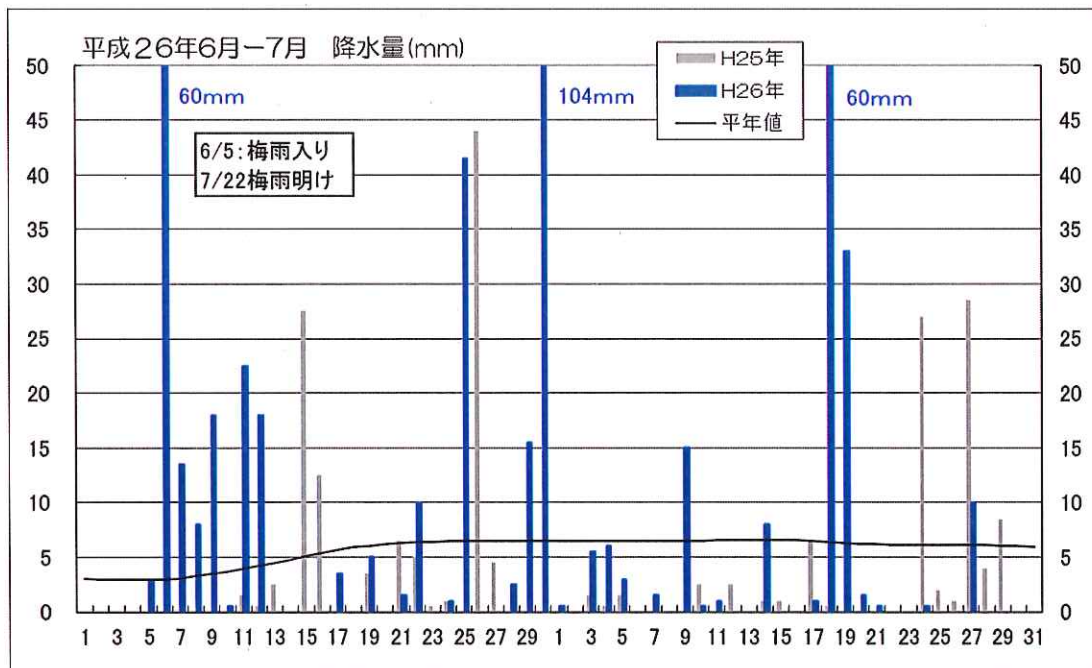
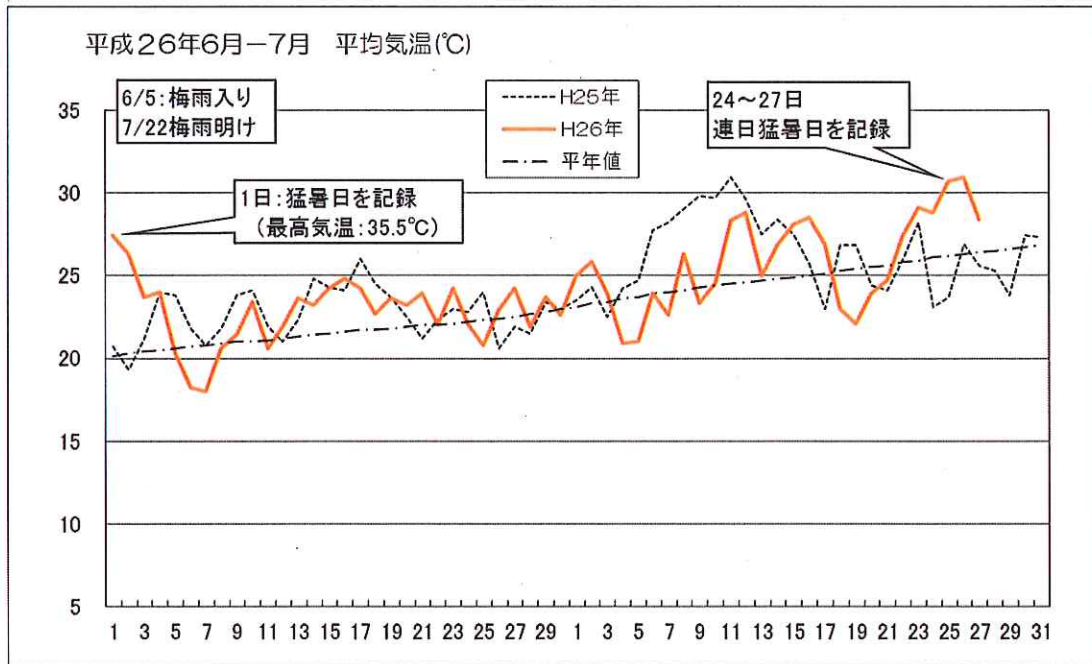
※詳細は別添資料をご覧ください。

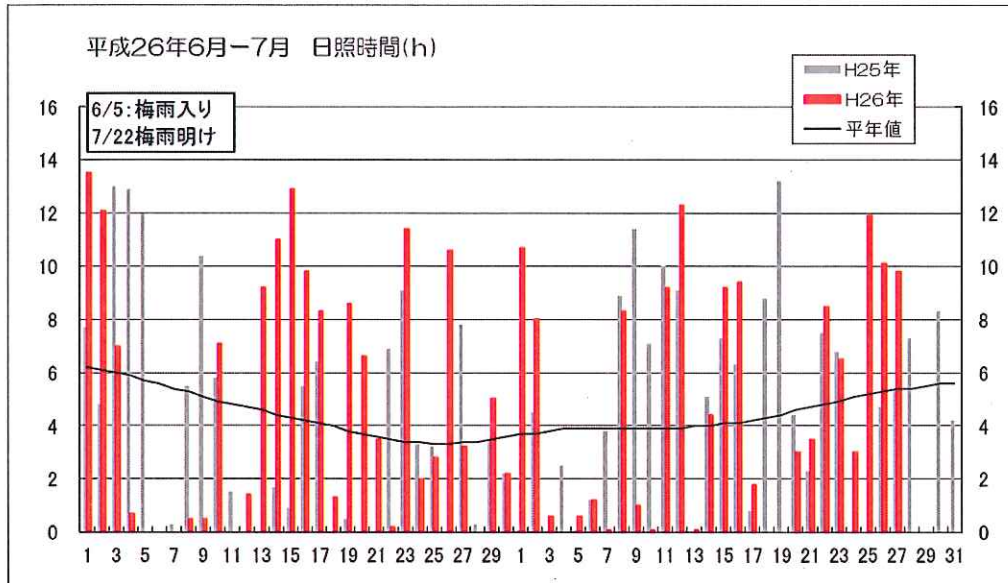
6

気象情報

（発信部署：営農総合支援センター）

内 容：気象経過（前橋气象台 標高112m）





みどりの風 放送予定

本放送：月曜日 21時00分～21時30分

再放送：日曜日 8時00分～8時30分



<今週の放送予定>

(第1113回) 「今が旬！孺恋高原キャベツの魅力」

放送日：7月28日（再放送日：8月3日）

内容：JA孺恋村より、日本一の生産量を誇る夏秋キャベツの生産の様子や、キャベツを使ったおすすめ料理などをご紹介します。

<次週の放送予定> ※8月4日は22時からの放送です。

(第1114回) 「季節を彩る菊」

放送日：8月4日（再放送日：8月10日）

内容：JA甘楽富岡より、お盆に向けて栽培している菊の様子や、生産者などが参加するコギクの研修会の様子などをご紹介します。

営農総合支援センター 生産振興課

(TEL : 027-220-2255 FAX : 027-220-2024)

トマトトロ箱養液栽培システム「ういずOne」の紹介

～水稲育苗ハウス、遊休ハウスの新たな活用技術～

J A全農 生産資材部
資材原料課

〈はじめに〉

全農では、水稲育苗ハウスや遊休ハウスなどの有効活用を目的として、トマトトロ箱養液栽培システム（以下：ういず One）の開発を行っています。ういず One は、発泡スチロール箱の栽培槽を用いた隔離床養液土耕栽培で、設置が容易で導入コストが安価なシステムとなっています。

ういず One の特徴は、1)発泡スチロールによる断熱効果で、ハウス内温度が上昇しても、根圏温度をトマト限界温度よりも低く抑えることが出来ること、2)根域量が小さくなることで、効率的な草勢管理が可能となること、3)他の養液栽培システムと比較して初期投資が低く、収益性が高いことなどが挙げられます。



図1 トロ箱養液栽培システムの様子

〈栽培手順〉

まず、発泡スチロール箱の底面に鉢底ネットを敷き、その上に排水性を高めることを目的にパーライトを充填します。パーライトの上に培養土を2回に分けて隙間を無くすように充填・鎮圧します。培養土は無肥料で排水性に優れたものを選定します。

この栽培槽に3号無底ポットで育苗した苗を定植します。苗は第一花房開花前後の時とし、培養液濃度や施肥量は、量産型や高糖度型など、それぞれの目的に合わせて設定し、ドリップチューブで株元に灌水します。なお、作型・栽植密度・誘引方法については、導入先の環境条件などを鑑み、慣行栽培に準じて設定することとしています。

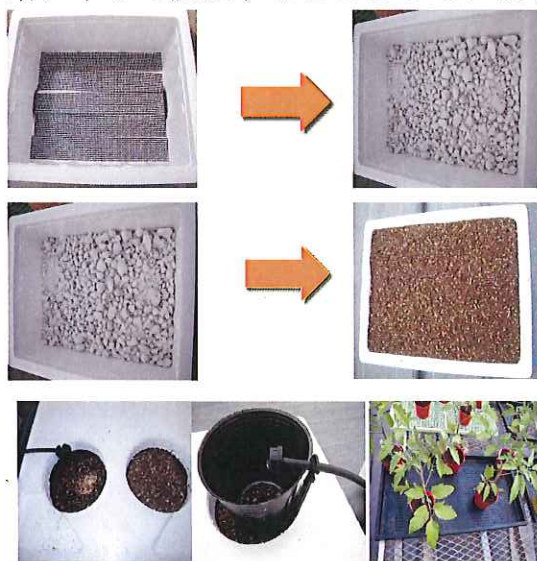


図2 培養槽の作成方法



図3 定植後の様子

〈液肥混入器ミニシステムについて〉

ういず One では液肥混入機として、ネタフィムジャパン製のミニシステムを導入します。ミニシステムは、給液する時の水圧を用いて肥料を投入する仕組みとなっています。また、灌水・施肥を行う際のコントローラが電池仕様となっているため、無電源でも栽培が行えます。



図4 ミニシステム(ネタフィムジャパン)

〈オリジナル発泡スチロール箱〉

全農では、栽培槽となる発泡スチロール箱の独自開発を行いました。発泡スチロール箱は、既製品を自分で加工して作成することも可能ですが、10a規模以上の導入となるとおよそ1,000箱の栽培槽が必要となり自主作成では対応が難しくなります。そこで、全農では、栽培槽となる発泡スチロールに排水口を設け排水性を向上させたり、容量を18ℓと大きくして様々な作物や品種に対応できるようにするなどの付加機能をつけたオリジナルの発泡スチロール箱をメーカーと協同で開発しています。

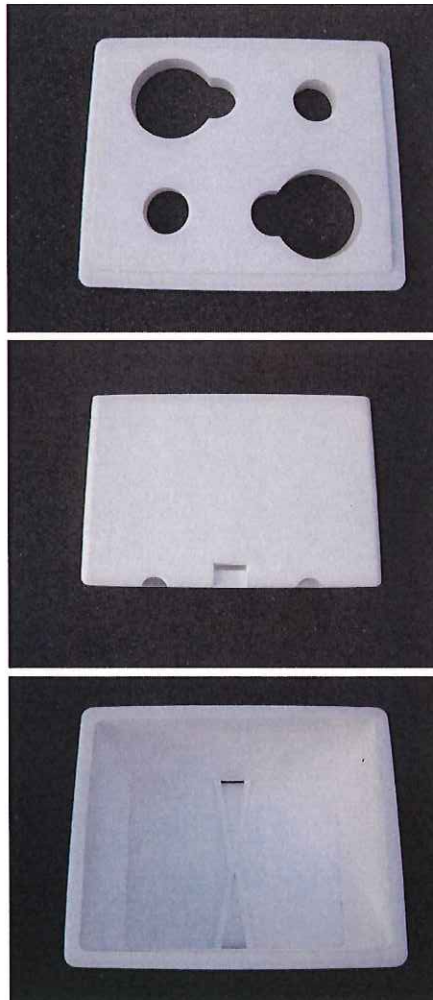


図5 羽根(株)の栽培槽

〈現地導入事例〉

J A山形もがみでは、平成 22 年度より育苗ハウスの閑散期を利用し、ういず One の試験栽培を開始しました。育苗ハウスの規模は約 50a で、12-5 月までネギ育苗として活用されていますが、5-11 月までは遊休ハウスとなる状況でした。このため、J A山形もがみでは、施設の有効活用のために本システムを 12a 規模で導入しました。作型はランニングコストの負担が小さい雨よけ夏秋（無加温）型としました。平成 22 年度の取り組み結果としては、猛暑の影響で収量は目標を下回ったものの、現地の担当者からは、管理が容易で、初期投資額に見合うだけの十分な販売収入が得られたとの評価をいただき、高い収益性が実証されました。



図 6 J A山形もがみのネギ育苗ハウス



図 7 J A山形もがみのトマト養液栽培現場

〈導入経費〉

ういず One の導入経費は、他の養液栽培システムと比較すると、初期投資金額は低くなっています。また、液肥混入機（ミニシステム）にかかる経費の構成割合が高いため、10a 規模以上では、単位面積あたりの導入経費は低減されます。

表 1. 導入経費の設置面積別試算(円)

項目	分類	設置面積	
		3a	10a
液肥混入機	①装置代	200,000	200,000
	②給液ノズル代	36,000	160,000
	③給液配管代	40,020	163,350
	小計	276,020	523,350
トロ箱	①発砲スチロール代	60,000	200,000
	②鉢底ネット代	900	3,000
	③パーライト代	16,200	54,000
	③培養土代	96,000	320,000
	小計	173,100	577,000
計		449,120	1,100,350
坪当たり試算		4,990	3,668

1a/トロ箱100箱(1箱2株を定植)

絡めてふさいでピッタリ防除

エコピタ® 液剤



有機栽培・特別栽培農産物に使えます!

トマト・ミニトマトのうどんこ病、
花き類・観葉植物のコナジラミ類、
かんきつの使用液量で

適用拡大!



有機JAS規格適合について

この度「有機農産物の日本農林規格」が改正され、2012年4月27日の施行日より、還元澱粉糖化物液剤（製品名：エコピタ液剤）も有機適合資材として認められました。また各自治体にて制定されています「特別栽培農作物のガイドライン」にしたがって、節減対象農薬の使用回数から除外され、成分カウント致に含まれなくなりました。



各種天敵と併用できます

●各カブリダニ写真：厚井隆志氏より提供

有機JAS適合資材

エコピタ[®]液剤



【成分】還元澱粉糖化物 60.0% 【性状】無色透明水溶性液体 【毒性】普通物* *毒物及び劇物に該当しないものを指している通称

特長

- 還元水あめ(還元澱粉糖化物)を有効成分とする人畜に安全性の高い薬剤です。
- 有機農産物や特別栽培にもご使用できます。
- 物理的に作用するため、病害虫の薬剤抵抗性を発達させるおそれはほとんどありません。
- 野菜類・花き類など幅広い登録をもち、難防除害虫であるタバココナジラミ(バイオタイプQ)、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病に高い効果を発揮します。
- ミツバチなど訪花昆虫に対する安全性が高く、天敵にも影響の少ない薬剤です。

登録内容

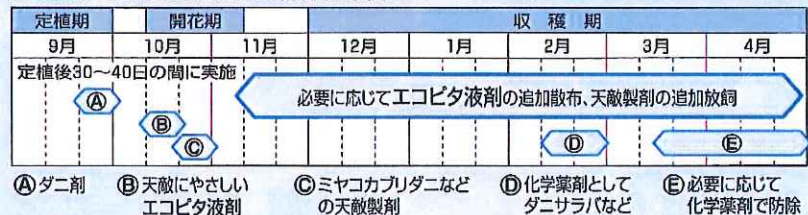
2013年8月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	還元澱粉糖化物を含む 農薬の総使用回数
かんきつ	ミカンハダニ	100~300倍	200~1000ℓ	収穫前日 まで	—	散 布	—
トマト ミニトマト	アブラムシ類 ハダニ類	100倍	100~300ℓ				
	コナジラミ類 うどんこ病	100~200倍					
いちご	アブラムシ類 コナジラミ類 うどんこ病	100倍	—	定植前	—	10秒~1分間苗浸漬	—
	ハダニ類		—	—	—	—	
野菜類 (いちご、トマト、ミニトマトを除く) 豆類(種実)・いも類	アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類 うどんこ病	100倍	100~300ℓ	収穫前日 まで	—	散 布	—
ごま	アブラムシ類	—		—			
花き類・ 観葉植物	ハダニ類 コナジラミ類 うどんこ病	—	—	発生初期	—	—	—

エコピタ液剤の上手な使い方

- 発生初期に葉裏までしっかり散布することが、効果を発揮させるポイントです!
- 気門封鎖剤は残効が短いため、5~7日
間隔の連続散布がお勧めです!
- カブリダニと併用する場合、体系処理
が必須です!

いちごでのカブリダニとの防除体系例



使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 本剤は散布液が直接害虫にかからないと効果がないため、害虫にむらなく薬液がかかるよう葉の表裏にしっかりと散布してください。
- 本剤は害虫の卵に効果がなく、残効も短いため、夏期高温時など害虫の増殖や園場外からの飛び込みが活発なときには、5~7日間隔の連続2回散布や他剤との輪番で使用してください。
- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。

- カーネーションに使用する場合、莖葉のワックス層が溶け、白っぽい莖葉が濃緑色になる等の薬害を生ずる場合がありますので、初めて使用する場合は使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。

安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼にはいらないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。使用後は洗眼してください。

貯蔵上の注意

- 密栓し、直射日光をさけ食品と区別してなるべく低温な場所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は園場等に放置せず適切に処理してください。